

2010年度第11回事務局会議のまとめ

2010年度第11回、「北海道に夜間中学をつくる会」事務局会議を、4月21日（木）午後6時30分より、エルプラザ2階消費者サロンで開催しました。

出席者は、工藤共同代表、泉事務局長、飯塚、工藤（朱）、小寺、境、佐々木、篠原、白倉（敬称略）の9名です。

会議に先立ち、札幌遠友塾賛助会員に向けた、5月28日（土）開催の映画「こんばんは」上映と総会を案内するパンフレットの発送作業をしました。

議題

1. 2011年度総会に向けての準備
 - 1) 総会議案書の作成と内容検討
 - ・活動報告、会計報告、会計監査報告
 - ・活動方針案、会計予算案
 - 2) 総会前に、案内文書や議案書など、発送にあたっての確認。
2. 本年度の役員体制
3. その他

話し合ったこと

1. について

2010年度活動方針にもとづく活動事項の確認をしました。

2011年3月末、北海道議会に提出した「陳情書」（2007年9月26日受理）、札幌市議会に提出した「陳述書」（同年11月15日受理）が、それぞれ議会事務局から「審議未了廃案」通知されたことの報告。

これらが廃案になるにあたり、札幌市市議会各党派、札幌市におこなった札幌遠友塾との「共同事業」要望についての活動内容を確認しました。

札幌市長との話し合いと、その後の札幌市教委とおこなった窓口レベルでの話し合いの結果、次のような支援1)がされることを確認しました。

1) 活動報告について

- ・「札幌市教委は札幌遠友塾の活動に対して責任をもっていると認識している」「出された具体的な要望に、どのような支援ができるか判断し決めていきたい」

これにもとづき、札幌向陵中学校と学校教室利用拡大のための3者協議が実施されたことの確認をしました。

- ・道内自主夜間中学の交流会について、昨年7月「生活体験発表」の意義を改めて確認しております。

それは発表した受講生や学習者さんたちの個別経験にとって意義があるだけに留めることなく、各自主夜間中学全体の意義にしていくことが

求められることを、活動方針案に盛り込んでいく確認をしました。

- ・全国夜間中学校研究会との連携について、「すべての人に義務教育を！特別委員会」、研究大会へ参加したことの報告。

受講生が参加し、交流することは意義があり、これからも札幌遠友塾に働きかけていく。昨年7月、「えんぴつの会」との交流は自主夜間中学同士の交流として、これから発展させていく必要がある。

- ・統一地方選挙立候補予定者に出した「公開質問状」について、当選した道知事、札幌市長、札幌市議会議員にその具体的な実行を要望するため、活動方針案に盛り込む。

- 2) 会計報告について、監査中の報告がされました。賛助会員収入が40万円程度であり、繰越金を支出にあてているのが現状。

予算案は、郵送料がふくらんでいることから交流の活動費を漸減させて組む必要。

- 3) 活動方針案についての提案

- ・昨年度は、旭川遠友塾が卒業生を出し、今年度は函館遠友塾、釧路「くるかい」が卒業生を出していくことになるので、授業の実施内容などでそれら「学びの」実現について、受講生・学習者さん、スタッフ・支援者の交流がいっそう必要になってくる。
- ・函館遠友塾では「授業が難しい」とか、釧路「くるかい」では不登校生を自主夜間中学で「受け入れるべき」か、旭川遠友塾では受講生が途中で辞めていくとか、いくつか解決する課題がでてきており、自主夜間中学同士の交流を深めて、解決の糸口をさぐる必要がある。
- ・全国夜間中学校研究大会に、自主夜間中学交流の分科会設置を求める意見が出されているが、それは道内で具体的な交流の形をつくり、その実例で提案していくのが良い。
- ・フリースクールとの交流などは、札幌遠友塾と札幌自由が丘学園との交流の実施であって、「つくる会」からはこれから促し検討してもらう程度にし、その実施を活動方針案に入れることはしない。

2. について

亀貝共同代表は辞意を示しており、自主夜間中学とフリースクールとの活動や交流のあり方など意見を交わし、そこでの内容でその意向の翻意をしていただくことも含め話し合いたい。

副代表について引き続き、函館遠友塾代表、釧路「くるかい」からの選出について、内諾をもらっている。

事務局員について、現事務局員は継続していただき、増員について、何人かのお願ひしたい人がおり、それぞれに引き受けの要請をする。

議会や行政との話し合いは、これまで以上に増えることが予想されるため、増員体制で臨んでいきたい。

次回： 5月12日（木）午後18時30分 エルプラザ部屋未定